

世界初の投球障害予防トレーニングマシン



SCAPULIZER スキャプライザー

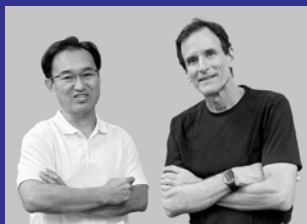
© SCAPULIZER All Rights Reserved.

商標登録(2026-001228)

特許出願審査請求番号 (PCT/JP2025/044210)

## スキャプライザー 10 の特徴

1. **肩甲骨の安定性を強化**: 投球動作の土台となる肩甲骨周辺筋を活性し、投球メカニクスの効率性と安定性の基礎を構築します。
2. **投球メカニクス (肩関節外転90°) での運動**: 実際の投球動作に即した角度でトレーニングが可能です。
3. **僧帽筋下部線維の強化**: 肩甲骨の上方回旋および後傾に必要な僧帽筋下部線維を活性させます。
4. **小円筋の強化**: 肩関節の後方安定性を高め、ブレのない正確な制球力の安定性を向上させます。
5. **フリーハンド仕様**: 運動中は手が自由なため、チューブ、ハンドエクササイズボール、フレックスバーあるいは実際のボールを握りながら補完的、実戦的エクササイズが可能です。
6. **可動式時置きを搭載**: 肩関節の水平外転および肩甲骨のリトラクション (内転動作) をスムーズに行えます。
7. **筋収縮アプローチ**: 求心性 (短縮性) 筋収縮だけでなく、減速期に重要となる遠心性 (伸張性) 筋収縮運動も効果的に実施可能です。
8. **可変式レール角度**: レールの角度を自由に調整できるため、個々の選手に合わせた実際の投球メカニクスに近い動作を精密に再現します。
9. **下半身の代償運動を抑制**: スツール (椅子) 上で運動を行うことにより、股関節や下半身の代償動作を最小限に抑え、標的部位を強化します。
10. **ヒップショルダーセパレーションの再現**: 体位の回旋を組み合わせることと、投球における捻転差 (ヒップショルダーセパレーション) のポジションでの運動が可能です。



鶴池 矩哉

Todd Ellenbecker 氏

科学的根拠に基づくアプローチ (Evidence-Based Approach)

鶴池 矩哉 PhD, ATC / 考案者

米国カリフォルニア州サンノゼ州立大学にて、10年以上にわたり大学院教育および研究に従事。Todd Ellenbecker 氏 (投球障害予防の研究と臨床においての世界的権威) とともに、肩甲骨運動不全 (Scapular Dyskinesis) テストを用いて、投球障害リスク予測モデルを構築。僧帽筋下部線維や小円筋に着目した投球障害予防エクササイズの研究を学術誌に多数発表。

投球メカニクスを緻密に再現し、肩甲骨、肩関節のポテンシャルを最大限に引き出すスキャプライザーはEllenbecker氏も強く推奨

Water  
Holder

株式会社ウォーターホルダー  
<https://water-holder.com>  
[scapulizer@gmail.com](mailto:scapulizer@gmail.com)